

一橋大学の過去問（二〇一八年）で、かつては京大でも毎年出題されていた「近代文語文」です。近代文語文は「現代文＋漢文」の実力を試すのに有効なので、一橋大学志望以外の皆さんもぜひチャレンジしてみてください！（目安…30分程度）

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

## 強者の戦略

「たとへ小なる試験に合格せざるとて、何ぞ直ちに失望すべきことか之れ有らん。自己の能力遙かに他に超越せるに、試験に応ずるに及びて不幸他に一著を輸すとして自ら怨ずるは、是れ謬妄の甚しきもの、他の合格して我れ独り能はざるは、其の地位に必要とする技倆の他に比して劣れるに因る。若し自己の能力更に大に他に超越せるを信ずる、須らく更に大なる事業を経営し一層崇高なる地位を占むるに努むべし。自ら偉大の能力あるを信じて、依然小事に齷齪し卑官を求むるに汲々たるは、身を処するの道を知らざるなり。將た又た雋才異能ありて、更に偉大の事業を遂行するに堪ふるにせよ、唯だ漠然之れ有るべきを恃みとして空しく其の到来を待つも亦た同じく身を処するの道を知らざるなり。蓋し人として世に立つ、何れの時何れの処にても常に其の為し得べきの事を為さざる可らず。時来れば之を成すべく、而して時来らざる、猶ほ必ず為す所あるを要す。或は機熟せざるが故に為さずとし、地位高からざるが故に為さずとする、人たるの分を疎略にする者と謂ふべし。之を総ぶるに、人の能不能は試験に因りて充分に判定する能はず。他も之を知るに難んじ、己れ亦た知ること難し。唯だ各自に其の職分を守り、孜孜之を履行するの外ある無し。乃ち小なる試験に適するあるべく、又た大なる試験に適するあるべく、或は常に失敗に終ることあるべく、又た意外に成功し得ることあるべけんが、苟も人として守るべき所を守り、為すべき所を為しつつある、成敗利鈍は固より憂ふるに足らざるなり。初め小学に在る、専ら自己の知識を開発するを旨とし、而して試験ありて一種の難関を作す。進みて中学に入る、又た専ら自己の知識を開発するを旨とし、而して亦た試験ありて一種の難関を作す。爾来常に自己の知識を養ふに専らに、而して又た必らず直接間接の試験あり。然るに其の試験の行はるる時、応じて発露する知識の量や極めて尠少、僅に識る所の一小部分に就て試験さるるに止まる。其の専門学を習修し、業卒へて官庁に入るに方りても、職務に応用する所は亦た極めて僅少の部分に過ぎず。概して他人と関係の際に用ゐる知識の量は、比較的甚だ少し。但だ他と関係の際に用ゐる知識の量は、実に僅かの部分なりと雖も、其の用ゐられざる所の多量のもの必ず無用なるを謂ふべからず。蘊蓄する所の多ければ、其の多きだけ人として進歩せりと為すべく、之を用ゐるべき場合あると否とは全く別事に属す。或は之れ有るやも測られず、又た之れ無きやも保し難し。若し之れ有るかの如くに信じ、空しく其の到らざるを啣つは、愚の至りとせざる能はず。二謂ゆる人事を尽くして天命を待つとは、如何の時如何の処にも適用すべきものたるを忘るべからず。

——三宅雪嶺「試験を論じ運命に及ぶ」

問い一 傍線一「たとへ小なる試験に合格せざるとて、何ぞ直ちに失望すべきことか之れ有らん。」を現代語に訳しなさい。

問い二 傍線二「謂ゆる人事を尽くして天命を待つとは、如何の時如何の処にも適用すべきものたるを忘るべからず。」とあるが、筆者がこの一文で言いたいのはどういうことか。文章全体をふまえて答えなさい（六〇字以内）。

問い三 筆者は試験をどのようなものと考えているか。文章全体をふまえて答えなさい（五〇字以内）。

## 強者の戦略